

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要

高田教区

# お待ち受け 大会



2022年  
4月16日(土)  
高田別院

## お待ち受け大会日程

2022年4月16日（土）

12:30

帰敬式受付

13:00

帰敬式

◆ 儀式執行：大谷暢裕門首

14:00

休憩

14:40

開会式

- ◆ 真宗宗歌
- ◆ 内局あいさつ
- ◆ 勤行
- ◆ 門首あいさつ

### 【勤行次第】

正信偈 草四句目下（同朋唱和）  
念仏讃 淘三  
和讃 弥陀成仏のこのかたは  
（次第六首）  
回向 願以此功德

15:30

記念講演

◆ 講師：楠 信生氏

17:00

閉会式

◆ 恩徳讃

# 帰敬式

13:00～14:00

儀式執行

おお たに ちょう ゆう  
大谷 暢裕 門首  
(真宗大谷派 第26代門首)



## ごあいさつ

本日、ここに、高田教区宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要お待ち受け大会のご縁をいただき、誠にありがとうございます。

さて、わたくしは、現代社会に生きる一人の人間として、今ほど、浄土真宗・念仏の教えが求められているときはないと感じております。突然おとずれるかもしれない大震災。環境破壊に起因すると考えられる地球温暖化と、それに伴う異常気象。さらには目に見えない感染症への恐怖。貧困や格差の拡大からくる社会の分断。自己の正当性のみを誇示した絶えることのない戦争。また生命科学やAIの発達によって、人間存在という枠組みそのものが根底から揺り動かされています。

不安ばかりがつのる世の中です。しかし、このような不安の中を生きる私たちには帰るべきところがあります。それは「愚<sup>ぐ</sup>」の大地であり、「凡夫<sup>ぼんぶ</sup>」としてのわたくし一人という宗祖のお示しであります。誠にありがたいことだと感じます。

こうした今、このときに慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」が発信されたことは誠に意義深く感じます。あらためて、宗祖聖人が<sup>あきら</sup>顕かにされた本願念仏のみ教えに生きようではありませんか。

来る2023年の宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要には御真影の前で皆さまと共に宗祖の御誕生を慶び、念仏相続のご勝縁に<sup>あ</sup>遇わせていただきますことを心より念じ申し上げ、ご挨拶といたします。

2022年4月16日

真宗大谷派門首 大谷 暢裕

## 講師

くすのき しん しょう

楠 信 生 氏

(真宗大谷派前教学研究所長)

(北海道教区幸福寺前住職)



## 講題

「真実の行信」

## ごあいさつ

親鸞聖人は八百年前『教行信証』を著して、行に迷い信に惑う者に「真実の行信」を顕かにしてくださいました。真実の行信とは、本願念仏の行であり信であります。

ところが、今の私たちはどうでしょう。悲しいことに、本願が何のことか、念仏が何のことかはつきりしないばかりか、不信と疑いがいよいよ盛んになってはいないでしょうか。迷い惑う現代人の一人がまさに自分自身であるという「気づき」を抜きに、教えを聞くことに真向かいになることはありません。

親鸞聖人は三十五歳で本願に帰しつつも、九十歳で亡くなられるまで念仏を申されながら「私が信ずるところは、仏の心に<sup>かな</sup>秤っているのであろうか」と、つねにたずねられました。つねに問いたずねることができたのは、「本願力に<sup>あ</sup>遇う」ということがあったからです。

このたび高田教区において、「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要お待ち受け大会」を勤められるに当たり、共々に慶讃のこころを確かめさせていただきたく「真実の行信」と題して考えたく思うことです。

## 【著書紹介】

- ・『南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう』  
(伝道ブックス83、東本願寺出版)
- ・『僧侶31人のぼけつと法話集』(共著、東本願寺出版)
- ・『いのちを考える連続講座—脳死・臓器移植をめぐる—』(北海道教区教化委員会)
- ・『傍訳親鸞聖人著作全集第六巻 傍訳和讃・消息篇』(共訳、四季社)

## ごあいさつ

高田教区宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業推進委員会  
委員長／高田教区教区会議長

お ざき ひで ゆき  
尾 崎 秀 行



今から49年前の慶讃法要の時、私はその記念事業の一つであった、スカウトの全国大会に参加しました。その時の感動は今も忘れることができません。その4年前、第八十六回宗議会において、訓覇信雄宗務総長は「青少幼年教化に総力を結集すべき」という演説をされ、その願いが継承された慶讃法要はまさに青少幼年教化に主軸を置いた法要であったと私は受け止めています。そしてその願いは、現在の池の平青少幼年センターの設立に繋がりました。

この時の慶讃法要のテーマは「生まれた意義と生きる喜びを見つけよう」でした。このテーマは今も風化することなく私の中で問いとして響き続けています。そしてこの度のテーマは「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。前回のテーマに呼応するテーマだと感じています。

かつて「家の宗教から個の自覚の宗教へ」という言葉が同朋会運動のスローガンとして掲げられました。しかし今、「家」の崩壊が加速する中で、それまで「家」を通して伝えられ、培われてきた真宗の仏事すら、「仏壇じまい」「墓じまい」という言葉が象徴するように、受け継ぐ場を見失いつつあるのではないのでしょうか。ましてや、「家」から「個」の自覚の宗教に確かに移行しているのかということ、そうであるということもできません。この度の慶讃テーマは、先行きに閉塞感を禁じ得ない時代社会に、大切な問いと願いを投げかけるテーマではないかと私は感じています。

お待ち受け大会には大谷暢裕門首はじめ、記念講演の講師として前教学研究所長であります楠信生氏をお迎えいたします。この大会が教区の皆様と共に、慶讃テーマに込められた願いを確かめ合う勝縁となることを心より願っております。

## ごあいさつ

高田教区宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業推進委員会  
副委員長／高田教区門徒会会長

ご み かわ ち あき  
五 味 川 千 秋



京都本山では、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要が2023年3月から4月にかけて、第1期・第2期法要にわけて行われます。その慶讃法要に先駆けて、当高田教区では今回のお待ち受け大会を開催するはこびとなりました。

ここで「御誕生」という言葉はその文字通りに理解することができますが、「立教開宗」という言葉は日常では聞き慣れないものであります。立教開宗とは、文字だけで解釈すると宗教上の教えを立て、宗あるいは宗派を開始するという意味となりますが、この慶讃法要が厳修される意義とあわせて、この機会にその理解を深めてまいりたいと思うところであります。

高田教区では2019年よりお待ち受け大会の準備・計画をしてまいり、本山より第26代大谷暢裕門首をお招きし、帰敬式を執行していただくことと相成りました。帰敬式は“おかみそり”とも言われますが、「仏」「法」「僧」の三宝に帰依する真宗門徒として新たな人生を歩み出すことを誓う大切な儀式であります。この機会に多くの仏弟子が誕生することは大変喜ばしいことであります。帰敬式のあとには、真宗大谷派前教学研究所長であります楠信生氏から記念講演もしていただき、大変ありがたい聞法の間となります。

人間は、いつの時代であっても悩み・苦しみ・迷いなどの煩惱からは逃れることはできません。煩惱具足の私たちに必要なことは、阿弥陀仏に願われている自分自身に気づき、真実の本願に出遇うこと、すなわち、日々お念仏を中心とした生活を送ることではないでしょうか。本日は大変ありがとうございました。

橘 秀 憲  
たちばな ひでのり



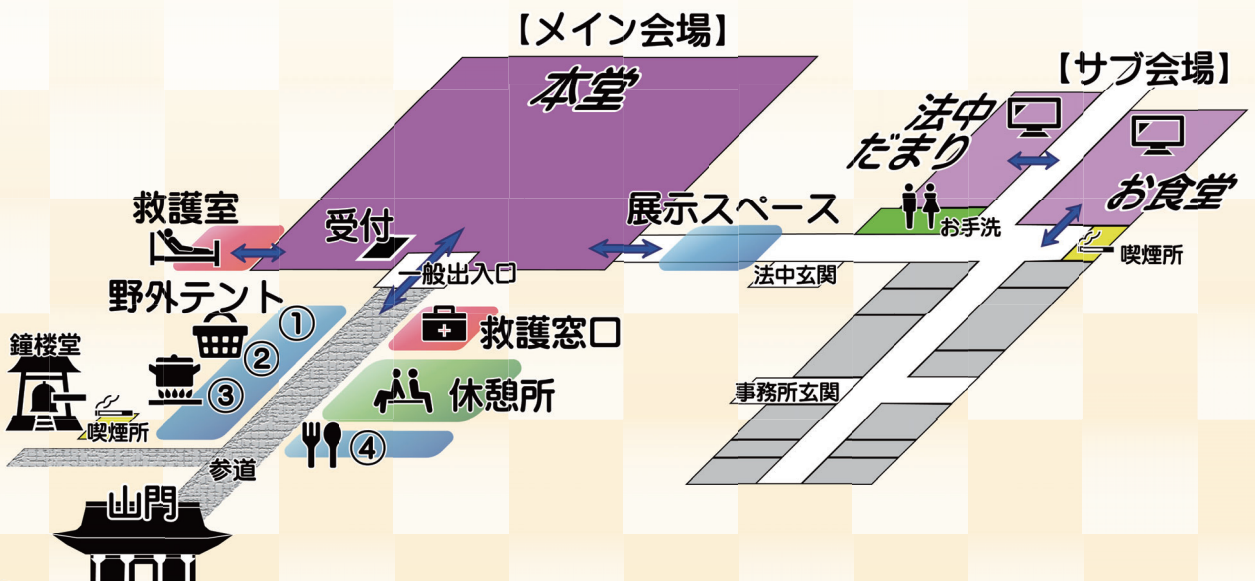
宗祖親鸞聖人の御誕生と立教開宗を慶讃する意義を確かめるべく、2021年4月真宗本廟お待ち受け大会・本廟創立七百五十年記念大会が開催されました。一年後にあたる本日、高田教区お待ち受け大会を開催いたします。2020年11月に教区慶讃事業推進委員会を立ち上げ、慶讃法要団体参拝、教区お待ち受け大会に繋げるものとして、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びの場を御誕生850年特別研修と各組お待ち受け研修として開き、一人ひとりの学びを深めてまいりました。本日は第26代暢裕門首執行による帰敬式と、前教学研究所以長の楠氏による記念講演で構成されておりますが、帰敬式による仏弟子の誕生を共に喜び、慶讃テーマに込められた願い・意義を確認していきたいと思うことです。

また本山により池の平青少幼年センターを開設してから50年が経過したことを受け、この度慶讃記念事業として耐震補強を中心に改修工事を行っていただきましたことは、まことに感謝に堪えません。設立の趣旨を引き継ぎ、施設利用を呼び掛けてまいります。教区改編後の新潟教区をはじめ宗門全体にも広くご利用をお願いしてまいりたいと思います。

創立50周年の記念事業を2023年6月に予定しておりますが、自然豊かな環境の保護（堂の育成）に、また歴史文化を継承する食の伝承（発酵食品である味噌）にポイントを置きながら、地域との交流をこれまで以上に深めていくことを中心として記念式典等を計画してまいりますので、是非センターに足をお運びいただき、温泉に浸かりながら50年の歴史に思いを馳せていただきたいと思います。

高田教区でのこの度のお待ち受け大会や慶讃記念事業が、新教区準備委員会において協議が進められている新潟教区慶讃法要厳修へと繋がっていくことを心より念じ申し上げます。

会場のご案内



# 帰敬式について

帰敬式<sup>ききょうしき</sup>は、「おかみそり」とも言われ、「仏」「法」「僧」の三宝に帰依<sup>きえ</sup>し、宗祖親鸞聖人が明らかにされた「教え」に自らの人生を問いたずね、真宗門徒として新たな人生を歩み出すことを誓う大切な儀式です。

受式されますと、仏弟子としての名<sup>な</sup>告り（名前）である「法名」（釋○○あるいは釋尼○○）が授与されます。ともすると、法名は「亡くなってからいただければよい」と思われる方もあるようです。しかし「帰敬式」は、お釈迦さま（仏陀）の弟子（仏弟子）になることであり、法名は、南無阿弥陀仏の教えにみちびかれ、仏道を歩む者となった新たな名告りです。したがって、生きている「今」受式することに、帰敬式の本来の意味があります。

真宗の伝統のなかにこの身を受けた一人ひとりの、人生の新たなスタートとして、「帰敬式」を受式することに意義があるのです。

## 【帰敬式の内容】

- 三帰依文<sup>さんきえもん</sup> … 三宝（仏・法・僧）を依りどころとして生きていくことをご本尊の前で誓います
- 剃刀の儀<sup>ていとう</sup> … 受式者お一人お一人の髪にかみそりをあてる儀式です
- 執行の辞 … 執行者からの言葉をいただきます
- 法名伝達 … 受式者の代表の方へ法名を伝達します
- 誓いの辞 … 受式者の代表の方に、誓いの言葉を述べていただきます

## 催事のご案内

◆ 野外テント① (14:00～14:40)

**仏具販売** 【廣川仏壇店】



◆ 野外テント② (14:00～14:40)

**バザー** 【教区坊守会】



◆ 野外テント③

(14:00～) ※無くなり次第終了

**炊き出し** (無料)

【池の平青少幼年センター】

・味噌汁(スキージ)



センター自家製味噌を使用

◆ 展示スペース (大会期間中)

**パネル展** 【教区教化委員会社会教化部門】

・男女平等参画の歩み、大逆事件屏風

◆ 野外テント④

(14:00～) ※無くなり次第終了

**ふるまい茶屋**

(無料)

【教区仏教青年会連盟】

・コーヒー、甘茶、おやき



※あわせてキッズふくしまの活動紹介と募金を行っております



# 南無阿弥陀仏

## 人と生まれたことの意味をたずねていこう

### きょうさん 慶讃法要について

真宗大谷派（東本願寺）では、来る2023年に宗祖親鸞聖人御誕生から850年、そして浄土真宗が開かれて800年を迎えることから、この二つを慶<sup>よろこ</sup>び讃<sup>たた</sup>える御仏事として「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」をおつとめいたします。

宗祖の御誕生、そして立教開宗を慶び讃えるということは、念仏の教えに出会い、自らにかけられた願いに深くうなずき、そしてそのご恩に報いていく歩みに他なりません。それは、人として誕生した私が念仏の教え・はたらきに出会う時、人として生まれたことの尊さに目覚め、生まれて生きることを真に喜ぶことのできる者となる、まさに念仏の教えに出遇った者の「報恩の営み」なのです。

このたびの慶讃法要は、一人ひとりが自らにとっての立教開宗の意味をたずね、本願念仏の教えをいただくかけがえのない大切な「時」と「場」を賜ることであり、自らの聞法生活を問い直し、あらためて念仏申す歩みを確かめていく機縁なのです。

- 【第1期法要】 2023年3月25日(土) から 4月8日(土) まで [15日間]
- 【第2期法要】 2023年4月15日(土) から 4月29日(土) まで [15日間]
- 【讃仰期間】 2023年4月9日(日) から 4月14日(金) まで [6日間]
- 【法要場所】 真宗本廟（東本願寺）阿弥陀堂・御影堂



慶讃法要詳細につきましては、東本願寺発行の慶讃法要参拝のご案内パンフレット（左）、または慶讃法要特設サイト（右）をご覧ください。

